

# みらい通信

市民派・チームみらい  
杉山元則 古川明美

事務所 蘇原六軒町 2-9  
電話 383-2900 FAX260-8233



9月議会は決算審議の議会です。各常任委員会は、数字で一年の取り組みを検証する大切な場です。その場で全く質疑をしない議員、コロナ対策を理由に常任委員会を欠席した市長。そんな現状が残念であり、これでいいのか疑問を感じました。コロナウイルスの影響で、来年の税収は確実に減ります。税金の使い道をチェックし、課題に向けよりよい政策提案ができるチーム議会となれるよう努めたいです。



日々の活動はブログ「なないろ通信」古川あけみ←検索

## 妊娠、出産包括的支援



出産前の夫婦対象 子育ての話「ハッピー子育て講座」と妊婦対象の「マタニティ広場」

目的が違う事業として、丁寧な取り組みは先進的と、他市からも高い評価。どちらの講座も知識、情報を得ることで不安が軽減されると参加者の満足度も高い。



しかし、今年からハッピー子育て講座はなくなり、マタニティ広場の中に盛り込まれました。その疑問を質問しました！

### ●古川意見

虐待、ネグレクト育児相談の件数を増やさないためにも、早い時期に信頼できる人と出会い学ぶ機会があることは大切です。大切なことを伝える事業は継続して欲しいです。今より後退することはあり得ない。

### ●古川質問「ハッピー子育て講座」と「マタニティ広場」の形を変えた理由。

△市の答弁 講師の先生(医師)の都合がつかなくなったので、二つの事業を一つにまとめた。助産師会の皆さんと協議を重ね「いいところ」を取り合わせてリニューアルしました。

### ●再質問 他の先生、又は先生の思いを継承できる助産師はいなかったのか。

△市の答弁 医師会を通じて他の先生をあたったがいなかった。以上です。(助産師に対しては答弁なし)

## 特別支援教育について



新しい特別支援学校建設に向けて質問しました。

### <基本構想・基本計画策定委員会を傍聴して感じた疑問点。>

- ・市民アンケート前、すでに候補地評価が終わっていた。
- ・土地選定評価の事業性、将来性の指標は児童生徒のことでなく、地権者との合意形成や土地利用の効果に対する評価。
- ・保護者代表2名、十分な意見交流ができるのか。
- ・とにかく夢がない、ワクワクしない！

●古川質問 現在の高等部を残し、公園構想の中に、特別支援学校を組み入れ、インクルーシブ教育の新たなつながりづくり、更に魅力的な構想にシフトできないか。



△市の答弁 小中高一貫校のため考えておりません。

●古川質問 様々な立場の障がいのある方、関心のある市民を中心としたワーキングチームを公募で立ち上げてはどうか。

△市の答弁 パブコメ、市民説明会を行う。公募型ワーキングチームは考えていない。ご心配いただく必要はございません!!

### <特別支援学校基本構想策定委員会を傍聴して感じたこと>

とにかく早く立派な学校を作りたい思いが先行していて、ハード面重視に感じられます。(ソフト置去り) コロナ禍の中で、人権の配慮が叫ばれていますが、実は日常の社会の中にも差別や偏見は溢れています。コロナで顕著になっただけで蔓延しています。今こそ特別支援教育から基本的人権を学ぶチャンスです。特別支援学校建設、市民の学校となるよう、どんな学校にしたいか、インクルーシブ教育とは、合理的配慮とは何かを、市民の皆さんと共に考えていく必要性を訴えました。

## 芸術・文化活動支援事業の充実



教育委員会の文化活動支援事業の評価が低い結果をふまえて質問。

●古川質問 市民アンケート結果では、重点的に取り組むべき課題が「子どもの鑑賞・体験の促進」となっているが、その課題が指標になっていない。これをどう捉えるのか。

△市の答弁 今後も積極的に取り組む。教育委員会事業点検評価については柔軟に検討する。

●古川の意見 市民の意見しっかり反映して下さい。

コロナ禍、学校での演劇鑑賞会は延期、中止。子どもたちのストレスが計りしれない今こそ、文化芸術の力で子どもたちの心を癒すことが必要です。学校での演劇鑑賞会に予算をかけること来年度の予算編成にしっかり反映して欲しい。

## インフルエンザワクチン補助について



コロナ対策に向けて「乳幼児から中学生、妊婦対象」インフルエンザワクチン接種の補助事業に疑問。質疑しました。

① 最も重症化率の高い高齢者及び基礎疾患のある方への補助がコロナウイルスの感染拡大を抑えるために有効。

② 予防接種を促すことにならないか。

私は、子宮頸癌ワクチン接種のとき、市からの案内に促され詳しく調べることもなく、急いで接種してしまったことを、とても後悔しています。国や自治体の政策の影響力は大変大きいので補助については慎重になるべきと考えます。

③ ワクチン接種を選択しない子育て世帯が一定数いる中でその数もその理由も十分に把握しないままの補助は公平性の観点から考えても慎重であるべきと考えます。